

畑で暮らす  
カーちゃん



私が育てたカラスの赤ちゃん  
Ⅲ

石下郁子

目 次

- 1、畑にも現れたカーちゃんの家族（14話）
- 2、畑で一夜を過ごしたカーちゃんは（15話）
- 3、畑にもいた敵（16話）
- 4、カーちゃん、畑で過ごした1週間（17話）
- 5、カーちゃんを忘れない親（18話）

うっかり玄関のポーチにカーちゃんを置き去りにし、再び猫に襲われてしまった後、このまま山に放つことも心配だった私は、夕方少し陽がかげるのを待って畑に連れて行くことにしました。

カーちゃんが今までのように飛べるかどうか心配だったからです。そしてもし飛べないようだったら、鳥獣保護委員さんにもう少し面倒をみたいと話すつもりでした。

それにごみ集積所に来ている二羽のカラスのことを思うと、いくらか気が晴れました。

2羽のカラスはカーちゃんを見てどんな反応を示すだろうと思いました。

もしそれが親とは違うカラスで、カーちゃんがいじめられそうになった時には出て行くつもりでした。

相手カラスがどんな反応を示しても、カーちゃんは怖がるに違いないとは思いましたがいつまでもそんなことを言っではられません。

夕方になりました。

いつものようにケージに入れたカーちゃんを自転車の前かごに乗せて畑まで行きました。

本当はカーちゃんは自転車のハンドルか前かご、または私の肩に止まったまま畑に行くこともできるのです。

でもそれには私の方に抵抗がありました。途中たくさんの車や自転車に乗った人や歩いている人に会わなければなりません。ケージに入れたカラスを持っているだけでも人目につきます。肩に止まらせ国道沿いをヒューッと走ったりしたらたちまち注目の的になってしまいます。それでカーちゃんには我慢してもらい、いつもケージに入れるか、自転車の前かごに閉じ込めて運ぶことにしていましたが、カーちゃんは当然のことながらこれを嫌がりました。

畑について恐る恐るケージから出してみました。はたして、カーちゃんは飛び立ってくれました。

畑に隣接した場所に、近くにある工場の倉庫か物置らしいプレハブの建物があります。カーちゃんは約20メートルほどの距離を飛んで、無事その倉庫の屋根に止まりました。

俊敏さはありませんがどうやら飛べることが分かりました。

胸がいっぱいでしばらくは茫然とカーちゃんの方を見ていました。

まだ明るかったので、草ぼうぼうの畑の草むしりをするつもりで来ましたが、仕事が手につきません。

それからややたってから私が動きを見せると、カーちゃんは戻ってきましたが、私が畑にいると分かるとまた行動範囲を広げ、その辺の散策を始めました。地面をつついて虫か何かを取るよう

なしぐさもしています。

腰を振り振り、歩き方は鶏そっくりです。それと後ろにはねた羽の形が、腰の曲がったおばあさんが、両手を後ろに組んで歩いているような感じです。

「カーちゃん」「ガーア」というような会話を何度もしました。

しかしそのうちに思いがけないことが起こりました。

きっとカーちゃんの家族に違いないカラスが6羽、ガーア、ガーア、鳴きながら畑の周りに飛んで来たのです。

子どものカラスの方は倉庫の屋根の上に、一定の間隔を置いて並んで止まり、親ガラスはそれより少し離れた電線に並んで止まりましたが、親の方は落ち着けないのが鳴きながらあたりを旋回し始めました。

「カーちゃん、ほらお母さんが来たよ、お友達も来たよ」と声をかけましたが、私以上におどろいているカーちゃんは怖がって、もう私の肩から離れません。

そしてきっと「怖いよ」とでも言っているのか一生懸命何かを訴えているのです。

自分たち親を忘れてこんなふうになんか人間になつた子どもを見たら、親ガラスはさぞつらい思いでいるだろうと、私は親ガラスに心から同情しました。そしてカーちゃんを自分の手に乗せて親の方に差し出してやりましたが、カーちゃんはそれを嫌がってまた私の肩にしがみつくように固まっています。そんなカーちゃんをはねのけるわけにもいかず、私はカーちゃんを肩に乗せたままずっと親ガラスの方を見ていました。

辺りが少し暗くなりかけたころ、カラスの親子はあきらめてどこかに飛んで行きました。

鳥獣保護委員さんの言ったことは本当でした。親が現れたのは、カーちゃんを畑に連れて来た時間がいつもより早い時間だったからかもしれません。親は一時間も経たないうちに畑にいるカーちゃんを見つけたのです。そして前のように家族そろってカーちゃんを迎えにきたのでした。それともう一つ感動したのはあのカラスの親は、昨夜の台風の中を自分の子どもたちを守っていたのだということでした。私はカーちゃんを必ず、あの親の元に返してあげなければと思いました。

しかしこのあとさらに思いがけないことが起こりました。

まだ十分明るいのに、私の肩に止まっていたカーちゃんが何を思ったか「ねんね、ねんね」と言いながら、畑の端に植えてある木の茂みの中に入ってしまったのです。

## 畑で1夜を過ごしたカーちゃんは（15）

---

7月21日

台風の日には鳥獣保護委員さんの訪問を受け、カラスを自然に放さなければならないことになりました。しかし翌日また猫に襲われ、羽を抜かれてしまったのです。

これまでのように飛べるかどうか心配だった私は、翌日の夕方近く畑に連れて行って様子を見ることにしました。

カーちゃんはどうか飛ぶことができ安心したのですが、夕方「ねんね、ねんね」といいながらそばにあった高さ3, 4メートルくらいの木々の茂みの中に入ってしまったのです。勿論その日は家に連れて帰るつもりでした。なんとといっても心配でしたから。その夜カーちゃんは一月ぶりに自然の中で過ごしました。

このカーちゃんを畑に置いてきた7月21日からその姿を見失うまで、私は毎日カーちゃんの日記を付けていました。きっと切なくて書かずにはいられなかったからだと思います。

あとで思ったのですが、カーちゃんは前夜、嵐の中で一人過ごさせられたことを思い出したのかもしれませんが。カラスは利口な鳥ですから「もうあんな思いをするのはいやだ」とでも思ったのかもしれませんが。

木の茂みの中に入ってしまったカーちゃんの姿は見えません。声をかけると何やらごちょごちょ言っていますがいつもの返事ではありません。たぶん初めての反抗をして、「いやだよ」とも言っていたのかもしれませんが。

がっかりはしましたが一方ほっとする思いもありました。

カーちゃんがこうして自然に帰ってくれば、後ろ髪ひかれる思いというのを味わわずに済みそうです。

「カーちゃん、じゃあ、そこでねんねしなさいね。明日また来るからね、バイバイね」

人間の子どものカラスの子どもと同じです。私はどっぴりとカーちゃんに愛情をかけてしまいました。違いはカラスは飼ってはいけない生き物だということです。いわば禁じられた愛でした。

翌日、22日は朝7時半ごろ畑に行きました。

カーちゃんは畑の真ん中付近にいてなにやら餌を探している様子です。無事でいてくれた、と思いました。

近づくとなら肩に乗ってきて喜びを全身で表していましたが、その後、昨夜置いて行かれたことの抗議のためか何か言いながら私の頭や背中をつついていきます。

昨夜置いて行った餌はきれいになくなっていました。そばに鳥のフンがあったので、カーちゃんの仲間が早朝に来て食べたのではないかとうれしくなりました。

容器に新しい水を入れて飲ませました。

持ってきた餌を出すと、さっきは地面をつついて自分で食べ物を探していたのに、またもや両方の羽を垂らして私を見上げ、食べさせてもらう気でいます。

その時になれば自分で食べるようになるのだと思って、カーちゃんの口にえさをはこびました。

その後、昨夜の自分の行為を後悔したらしいカーちゃんは、私と自転車どちらかのそばをずっと離れませんでした。地面に降りてその辺を歩く様子もありません。とにかく片時もそばを離れないのです。

これでは家に帰る時が大変だと思いながらカーちゃんを肩に載せたまま炎天下で草をむしっていました。

しかし11時近くなると疲れたのか、倉庫との境の金網のフェンスのふちに飛んで行って止まりました。そこに何か濃い紫いろの実を付ける丈の高い雑草が茂っていてちょうど木陰を作っていたのです。

私の方ももう限界でした。朝から強い日射しを3時間以上浴びています。

軽かったとはいえ、今もまだ帯状疱疹の治療中です。頭の中はともかく、顔右側の腫れはまだ引かず真っ赤です。

病院の先生からは紫外線に気を付けないとシミが残ると注意されていました。

「シミって赤い色ですか」と聞いて「茶色です」といわれてがっかりしました。

そして大量のビタミンCをもらったのですが、それを飲むと胃の具合が悪くなるため、ついおろそかになっていました。

全身汗びっしょり、持ってきた水も飲み果たしたところで、帰り支度を始めました。

カーちゃんの方を見ると、フェンスに止まったままこちらを見ていましたが、動く気配はみせません。私は声をかけませんでした。

自転車をこぎだし、振り返ってみました。これから一休みしようとも思っているのか、やはりさっきのままです。

家にいたとき外出する私を見送っていたと同じ様子で、じっとこちらを見ています。

その日の夕方、再び畑に行くと、カーちゃんの姿が見えません。名前を呼ぶと近くの駐車場に止めてあった大型トラックの上から飛んできました。

今朝と同じように私の耳元でひとしきり文句を言っていました。そばを離れないのも今朝と同じです。

しかし暗くなりかけても昨日のように木の茂みの中には飛んで行かず、私の頭の上に乗る「ねんね、ねんね」と繰り返しています。

カーちゃんは昨夜きつと怖い思いをしたのでしょうか。それで木の中で寝るのは嫌になったのです。朝、カーちゃんの様子を見た時からそれは分かっていました。

でもこれで連れ帰ったら、これまでのことが無駄になります。どうしたって飼うことはできないのですから、何度も同じ辛さを味わわせたくありません。

私は辺りがすっかり暗くなるのを待って、カーちゃんを腕に止まらせ木のそばに連れて行き、茂みの中の枝に飛び移らせました。

そして耕運機の上に朝、食べる餌を置き、水も容器いっぱいに注ぎ、木の中のカーちゃんには昨日と同じように声をかけて家に帰りました。

前日の畑の様子で書き忘れたことが幾つかあります。

それはカラスの家族が2日目も畑に姿を見せていたことです。意外だったのは以前のように騒ぎ立てることなく親はそばの電線に止まってじっとしていたことです。

カーちゃんが私の肩や背中から離れずにいる様子も、親ガラスは耐えて見ていました。

カラスの親は最初畑でカーちゃんを見つけたとき、以前家の周りで鳴いていたときのように、それはうるさく周辺を飛び回っていました。

しかし2日目になると親はもう、カーちゃんがどんなに私に甘えても、騒ぐことはしませんでした。

おそらく騒ぎ立てることが子どもを驚かすことになることを学んだのです。

きょうだいの4羽は親がいる電線とは反対側の倉庫の屋根の上に、やはり等間隔で並びじっとしています。

その屋根の上に偶然のように、小窓のような4つの突起があるのです。4羽のきょうだいはおあつらえ向きとでもいうようなその突起の上にいつも並んで止まるのです。それは目を見張るような驚きの光景でした。

その中の1羽は、いつもほかの鳥とは違った行動をします。このカラスは他のカラスがおとなしくしていてもみんなに命令でもしているのか、よく怒ったような声で鳴いていました。

この時もありますが、他のきょうだいも親と一緒に引き上げても、少し離れたところに1羽だけ残っていることがよくありました。それで私はこのカラスを『見張りガラス』とよんでました。

書き忘れのもう一つ、カーちゃんはよく水浴びをします。

水があればバケツの中にも入ろうとするので、以前犬のシャンプー一用に使っていたたらいを畑に持って行きました。そこに水を張ってやると喜んで飛び込み、水の中で羽を広げます。

カラスの行水という言葉がありますが、カーちゃんの行水はそんなに早くは済みません。ゆっくりしたものです。

2日目、水浴びが済んだカーちゃんは畑の土の上にびよんと飛び降り、ぬれた足を土でまっ黒にしてから私の肩や背中に載ってきました。それで私の服は泥だらけになりましたが、帰りは辺りが暗くなっていたので人に気づかれずにすんだのでした。

カーちゃんが畑に住み始めたころ、畑には雑草が茂り草原のようになっていました。雑草と言えどもこうも茂るとそこはちょっとした風情があります。その上を風が吹きわたります。

私は夫にこう言ったのを覚えています。

「最初からカーちゃんを畑に連れて行って、生活させればよかった。そうすればあんな思いをしなくて済んだし、カーちゃんも早く自然に慣れたのに」

カーちゃんを畑に連れて行き食べ物を運んでやればよかったのです。自分は全く無駄なことを

してきたような気がしました。私がそれを言うと、

「それは結果でしょ」と夫は言い、「あのときは家で飼うことしか思いつかなかったんだから、いいんじゃないの」と言っていました。その時私は、前途に明かりが見えたような気がし、ほっとした気持ちでいたのです。

ところが翌日、23日の朝、畑に行ってみると畑の様子がどことなく違ってきます。

中央付近に植えてあった数本の黄色のミニトマトが、これまでにないような実のとられかたをしています。下の方の実はもぎ取られ、動物が食べたような残骸が周囲に散らばっています。

耕運機の上に置いてきた餌はきれいになくなっていましたが、鳥が来て食べたというより、何か他の動物が来ていた様子です。

はっとしてタベカーちゃんを止まらせた木のそばに行ってみました。

周辺には何か動物のものらしい無数の足あとがあります。木の周りを踏み荒らした様子です。

道路を超えた北側の林の方から、この場所まで歩いて来たらしい動物の足跡が、柔らかい土の上についています。大きさは5, 6センチです。

もう疑いようもありませんでした。昨夜動物がここにきたのです。周辺にはハクビシン、アライグマ、タヌキ、キツネなどがいると聞いています。

この様子では木の上にいたカーちゃんはさぞ恐ろしい思いをしたに違いありません。昨日、カーちゃんをもっと早く畑に連れてきていればよかった、と思ったばかりなのに。

かわいそうなカーちゃん、私は胸がつぶれるような思いでカーちゃんの方を見ました。

でも畑3日目のカーちゃんはただ私に甘えてくるだけで、外での生活に慣れたとでもいうように昨日のような不安定さは見せません。しかし何か対策を考えなければならないと思いました。

危険はあってもカーちゃんは無事だったのだから、あの木の上は身を守れるところなのだ、と考えました。問題はカーちゃんはその恐ろしさに耐えられるかどうかです。耐えられるはずがない、と思いました。

結局この日の午前中は2時間ほど畑にいて家に帰りました。今夜はとりあえず家に連れて帰ろうと思っていました。

しかし夕方再び畑に行くと、カーちゃんの姿が見えません。

どうしたのかと胸騒ぎを感じていると、しばらくして、水平に羽を広げた形で東の山の方から飛んできました。

カーちゃんがそんなふうには飛んだのを見たのは初めてでした。少し感動しました。

この夜は家に連れて帰るつもりでしたが、私の頭の上で「ねんね、ねんね」を繰り返していましたが、間もなくあきらめて北の方角に飛んで行ってしまいました。

カーちゃんはもうこの場所に懲りて違うねぐらを見つけたのだと思い、少しほっとしてその姿を見送りました。

翌24日は日曜日でした。この日は8時ごろ畑に行きました。

この日私が畑に行かなかつたらと、その後何度も考えました。

もし私が行かなかつたらカーちゃんは仲間に慣れて、野生のカラスとしてもっと早く普通の生活に戻れたかも知れません。

畑に行く手前で、カーちゃんは昨日飛んで行った方角から私を見つけ、自転車のハンドルに舞い降りてきましたが、そのあとをついて6羽のカラスもいっせいに飛んできたのです。みんなが大事なカーちゃんのあとを追いかけて来たという感じでした。

もしかしたら前から電線かどこかに止まっていたのかもしれませんが、いっせいに姿を見せたのです。これもまた驚きの光景でした。

私が畑について自転車を止めると、カーちゃんは前かごにいれてある餌をねだりました。

本当は餌も何もあげないで、水だけ移し替えて帰ってきてしまえばよかったのです。けれど私は用意した餌をカーちゃんに食べさせてしまいました。

こんなふうに1羽だけかわいがるのはいけないと思いました。

できればみんなにも餌をあげたかったのですが、他のきょうだいカラスはめいめいの所にいてももちろん近づいて来ません。その様子を親鳥がじっと見えています。

私は自分の存在がカーちゃんとその仲間の間を隔てていると思ひ急いでそこを立ち去ろうとしました。

しかし早々に帰ろうとすると、カーちゃんはそれを察するのか余計まわりついてきます。

私は意を決して自転車を発進させました。するとカーちゃんは荷台に飛び移り、いいかげんついてきましたが、やがてあきらめたらしく、道路際に止めてあったトラックの荷台に止まりました。そして昨日とは逆に私を見送っていました。

その夕方畑に行く途中、ある家の裏山で竹を切っていた人に、カラスのことを聞いてみました。これまで三晩外で過ごしたカーちゃんに朝夕に餌を届けていましたが、日中どう過ごしているかが気がかりでした。

この辺で羽が傷ついたカラスの子どもを見かけませんか」と聞くと、尾羽のないカラスの子どもを見かけた、と言われました。

一羽ですか、と聞くと一羽でいたと言います。

羽がなくても少しは飛べるらしい、木から木へ飛び移っているから、と言うのです。

「そのカラス、一か月ぐらい前、猫に襲われているのを助けて、私が育てたカラスなんです」というと興味を示したようでした。

そして近くの高い木を見上げ、ここにはもう何年も前からカラスの巣があって、今年の春も雛

がかえっていた、と話してくれました。

その場所から少し入り組んだ道路を挟んで中層の団地、戸建て住宅と続き、我が家までは直線で300メートルほどの距離です。

やはりカーちゃんの生まれた場所はこの辺だったのだと思いました。あまり飛べなかった赤ちゃんガラスが私たちが住む住宅地に迷い込んだのですから。

他の4羽のきょうだいたちと一緒に卵からかえったカーちゃんでしたが、1羽だけ巣立ちに失敗したのです。

畑にあった獣の足あとのことを思いだし、

「この辺には何か動物がいますか」と聞くとタヌキが山にいる、と言います。

あの様子じゃ、すぐにやられちゃうだろうなあ、野放し猫もいるしなあ。この間は鶏小屋に入られて鶏をやられたから…… 心配だね」と同情してくれました。

周辺に獣がいることは想像がついていました。それでも鳥獣保護委員さんは、カラスには羽があるので高い木と、近くに水場があれば生きていくことはできると言っていました。

でもカーちゃんはやはり1羽だけでこんな林の中で時間をつぶしていたのだと思いました。昼間、親や仲間と一緒にいないことははっきりしました。

その人は「今度いたら見ていてやるよ」と言ってくれました。どう期待すればよいかわからない言葉でしたが、その人にお礼を言ってそこを立ち去りました。

畑に行くところには今まで見たこともない猫がいて、カーちゃんの姿がありません。

畑に来て4日目にして早くも猫の出現とは…… がっかりしましたが、この上は一日も早く仲間のもとに帰ってもらうしかありません。

倉庫の屋根の上に今まで気が付かなかった黒いものがあり、カラスが猫に襲われたのかと思いきりしました。離れていてよく確認できませんがカラスの羽の色そっくりです。

いつも姿を見せる親ガラスの姿もなく心配していると、カーちゃんが北の空の方から飛んできたので安心しました。その方角はさっきの林の方角です。

カーちゃんが下りてきて地面を歩いていると、先ほど追い払った猫がまた姿を見せ、歩いているカーちゃんに何度も飛びかかりました。カーちゃんはそのたびに身をかわしますが、猫を恐ろしいとは感じていない様子です。悠々と猫の目の前を歩いているのです。私はもちろん猫を追い払いました。

親ガラスはこの日とうとう姿をみせず、代わりに見張り役の小さなカラスが少し離れた電柱に止まり、しわがれた声で鳴いていました。

この日、猫の襲撃と木の周りであった足跡のことが心配でカーちゃんを家に連れて帰り、可哀そうでしたがお風呂場で過ごさせました。

## 25日(月)

朝、疲れて畑に行くのをお休みしました。カーちゃんはお風呂場の中で鳴いていました。

風呂場に段付きのプラスチック製の花代を置き、そこに止まらせるようにしました。風呂場の中では少しなら運動もできます。

夕方畑に連れて行くと、親ガラスはいませんでした。見張り役のガラスがいてカーちゃんとは全然別のしわがれた声で鳴いていました。何か怒った様子です。

暗くなる頃「ねんね」というカーちゃんを木の中の高い場所に止まり木を渡してそこに止ませ帰ってきましたが、往復させたことでカーちゃんの羽を私が少し傷めてしまったようでした。

## 26日

朝6時ごろ畑に行くと入り口付近の電線のところから飛んできて肩に乗り、えさを食べいつも通りでした。私はこの日、2時間ほど作業をして帰りましたが、カーちゃんは途中まで追いかけては来たもののすぐにあきらめ、駐車場のフェンスに止まってこちらを見ていました。

夕方、行って見るとカーちゃんの姿がありません。何ごとかあったのかと不安を感じていると、暗くなりかけた頃あらわれましたがずいぶん羽を傷めています。餌もあまり食べません。

暗くなると畑の横に生えている木の細い枝に止まって、落ち着こうとしている様子でしたが、そこは空からも地上からも身を隠す茂みがなく危険がいっぱいの場所です。雨も降りだしていたので、枝をまげてカーちゃんを捕まえ、家に連れて帰りました。

## 27日〈水〉

9時半頃カーちゃんを畑に連れて行きました。すぐに倉庫の屋根に飛び乗りそこで休んでいました。私が郵便局に用事があり、畑から出て来る時もそのままいて再び畑に行ってもそのままです。

帰ろうとした時だけわかって後を追ってきましたが、すぐにあきらめ、戻って行きました。

もう狭い場所に閉じ込められるのは嫌なのだ、と私はカーちゃんの気持を察しました。

夕方、畑に行った時姿が見えず、間もなく倉庫側の林の方から飛んできて、駐車中の車の上で遊んでいます。車を傷めると思い名前を呼ぶと飛んできましたが、あまり餌を食べません。

この日は小雨でしたが、置いていくのはやはり危険に思えて連れ帰ろうとしました。しかし捕まらないので、木の中に作った止まり木に止ませようとしたのですが、カーちゃんはそこを嫌がり飛び立って、近くの農家の屋敷内にある高い木の中に入って行きました。あの木の中なら安心、と思いほっとして帰ってきました。

カーちゃんが畑で過ごすようになって1週間が過ぎました。私にとっては切なさや不安の入り混じった1週間でした。

自然の中で生きるということはさまざまな危険との戦いであり、一日が通常の何倍もの濃縮さで流れていきます。

カーちゃんもこのころ1日にその何倍、何十倍かの経験をしていたのだと思います。

想像もつかないほどの怖い思いもしていたのだと思います。羽を傷めて帰ることが多く、餌をあまり食べなくなってきました。それでも申し訳けのように畑に姿をあらわし、私に甘えてきます。

親ガラスはここ3日ほど姿を見せず心配しました。きょうだいの1羽にカーちゃんの見張りを頼んでいたようです。

カーちゃんよりも体の小さな見張りガラス、しかしその動きは俊敏です。不思議でしたがこれが事実だったのです。

## カーちゃんを忘れない親（18）

---

7月28日、8日目。



朝、雨が降っていたので9時ごろ畑に行くのと来るのを待っていた様子で鳴き声を上げて、近寄ってきました。



餌を与えると、肉、卵焼きはよく食べますが、トマト、めんなどは食べません。

じゃがいものところの草むしりをしていると、いつもの見張りガラス、続いて親ガラスが姿を見せました。

私が畑にいない時間に畑に来ていたのかもしれませんが、親ガラスを24日以来、久しぶりに見ました。

このところ子どもを見ても騒がなくなっていた親ガラスが、なぜかこの時は鳴き声をあげました。カーちゃんは怖がって、私の帽子や草むしりをしている背中に飛び乗って動きません。

親の目の前でカーちゃんにそんなふうにさせるのはいけないと思い、帰り支度を始めましたが、いつの間にか親ときょうだいガラスの姿が見えません。すると安心したのか、カーちゃんは残っていた餌を食べ始めました。

倉庫のところにいつも数台の車が止まっています。このごろカーちゃんが車の上に乗ることがあったので、気になっていました。謝らなければと思っていました。

その時はちょうど車の持ち主らしい人がいたので、ガラスが車の上に乗って迷惑をかけています、すみません、と謝ると「大丈夫ですよ」と言ってくれました。

「よく慣れていますね」と言われ、やはり見られていたんだなと思いました。

帰るときカーちゃんはいつものように駐車場の金網、電線へと飛び移り、3、40メートルほど追いかけてきましたが、振り向かないで帰ってきました。

夕方は小雨が降っていました。

いつもの時間に畑に行くとき、先日、農家の人がこの辺にガラスの巣がある、と言っていた方角から、カーちゃんの声が聞こえてきたように思いました。

カーちゃんはハシボソガラスですが、他のハシボソガラスよりは高めの声で鳴きます。

まだ小さいせいか、連続でガア、ガア鳴くこともありません。少し高めの声で、ガーア、ガーアと鳴き、その声は他のきょうだいガラスの鳴き声とも違い、私には聞き分けられます。

その時、林の方からカーちゃんによく似た鳴き声が聞こえてきましたが、私は林の道を通らず、畑への道を急ぎました。

しかし小雨のせいか、朝私がカーちゃんを振り切って自転車に乗って帰ったせいか、この夕方初めて、カーちゃんは畑に姿を見せませんでした。

さっき林の中で鳴いていたのはやはりカーちゃん、どこかにねぐらを見つけたのだと思いました。

## 29日、9日目

この日、夫の仕事が休みで、朝畑に行くというので、ガラスの餌を持って行ってもらうことにしました滞在時間7時から9時ごろまで。

倉庫の屋根に2羽のガラスが並んでいたが、カーちゃんかどうかは分からなかった、鳴き声も聞いたが判別できなかったといいます。

2羽で並んでいたとなるときっと親だと思い、来てくれたことをうれしく思いました。

午後2時ごろ、畑に行きました。今までとは別の道を通って行くと、少し離れた場所の電線に止まっているカーちゃんらしい鳥が一羽だけで見えます。

少し近寄ってみました確認できず、畑に向かうと、倉庫の屋根に親ガラスが一羽います。どこか近くの場所にいたのか残る一羽も間もなく加わりました。

やがて2羽ともいなくなると、さっきガラスを見た方角から、カーちゃんが一直線に飛んできました。やはりさっき見たガラスです。

するとこの様子をどこかで見ていたらしい親が2羽、再び畑に姿を見せました。

カーちゃんがおびえて私から離れないでいると、たまりかねたのか、2羽がそろってこちらに向かって飛んできたので、ひやりとしました。

スピードを上げてまるで威嚇するように並んで向かってきたのです。攻撃されるのかと思わず顔を伏せました。しかし親は私たちの直前1メートルのところで、左右に分かれて危害は加えられませんでした。

その後、2羽は何事もないように空き地になっている隣の畑を歩き餌を捜すようなそぶりを見せました。

子どもに餌のとり方を教えてでもいるようなゆっくりとした動きで、見ていて切なくなりました。

しばらくして親ガラスがいなくなり、代わりに見張りガラスが来ました。

カーちゃんが私の頭に乗ったりしているのでこれはいけないと思い、放そうとすると抗議して私をつついたりしてきます。

雨、雷が激しくなりそうだったので餌を大目に与えて帰ってきました。

カーちゃんはここ2、3日で足や、くちばしの力が強くなり、顔つきもだいぶ精悍なものになってきました。

## 私が育てたカラスの赤ちゃんの話

### I ウッドデッキにいたカラスの赤ちゃん

### II カラスのきょうだいたちがやってきた

### III 畑で暮らすカーちゃん

### IV 畑で暮らすカーちゃん (2)

### V 公園のカーちゃん

### VI 『夕焼、小焼の あかとんぼ』

畑で暮らすカーちゃん

<http://p.booklog.jp/book/76155>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76155>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76155>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ